

建築研究所ニュース



令和3年12月22日

歴史的建築物の活用と防火対策について情報交換し、
今後取り組むべき課題について考えます。

政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム
～令和4年2月14日(月) オンラインにて開催～

国立研究開発法人 建築研究所では、令和4年2月14日(月)に、「歴史的建築物の活用と防火対策」と題して、国立大学法人 政策研究大学院大学との共催によるシンポジウムを開催いたします。詳細及び参加登録については、別紙資料のとおりです。

最新情報については、国立大学法人 政策研究大学院大学のホームページ (<http://www.grips.ac.jp/jp/events/>) を御確認ください。

(問合せ先)

国立研究開発法人 建築研究所
所属 企画部 企画調査課
氏名 根谷 拓志
電話 029-879-0635 (直通)
E-mail kikaku@kenken.go.jp



政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム
「歴史的建築物の活用と防火対策」



趣 旨：地域の魅力あるまちづくりを進めるため、歴史的建築物の活用が広がっています。一方、歴史的建築物の活用にあたっては、現行の建築基準法の基準に適合させるための改修が難しい場合があります。このため、防火・避難規定等について、必要な安全性能を確保しつつ、改修等が容易に対応できることが重要となっています。本シンポジウムでは、関連する取り組みや技術の動向等について情報交換し、今後取り組むべき課題について考えます。

日 時：2022年2月14日（月）13:30～17:00

会 場：オンライン（ZOOM ウェビナー：事前登録制）

主 催：国立大学法人政策研究大学院大学、国立研究開発法人建築研究所

後 援：国土交通省国土技術政策総合研究所、(独法)都市再生機構、(独法)住宅金融支援機構、(公社)日本建築士会連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本建築構造技術者協会、(一社)日本建設業連合会、(一社)マンション管理業協会、(一社)住宅生産団体連合会、(一社)日本建築学会、(一財)日本建築防災協会、(一財)ベターリビング、防火材料等関係団体協議会、建築研究開発コンソーシアム、防災学術連携体

プログラム

進行役：菅原 賢（政策研究大学院大学 教授）

13:30-13:40 **主旨説明**：成瀬 友宏（国立研究開発法人建築研究所 防火研究グループ長）

13:40-17:00 **講演及びパネルディスカッション モデレーター**：後藤 治（工学院大学 教授）

13:40-16:10 **講 演**

渡邊 峰樹（国土交通省 住宅局 参事官（建築企画担当）付 企画専門官）

「歴史的建築物の活用に向けた建築基準法における取り組みについて」

広瀬 隆（臼杵市 都市デザイン課）

「臼杵市景観形成防火地区の取組 保全と安全の両立、そして活用へ」

小坂 謙介（金沢市 文化スポーツ局 歴史都市推進課 主査）

「金沢市における歴史まちづくりの取組について」

関澤 愛（東京理科大学 研究推進機構総合研究院 教授）

「首里城火災の教訓を踏まえた文化財防災における新たな変化」

後藤 治（工学院大学 総合研究所 教授）

「火災実例の紹介ーグラスゴー美術学校他」

石郷岡 将平（能美防災株式会社 研究開発センター 消火システム研究室）

「高粘度液体を用いた歴史的建築物への消防技術」

水上 点晴（国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究部 防火基準研究室 主任研究官）

「国内外の茅葺建物に対する法規制と防火対策」

安井 昇（早稲田大学 理工学研究所 招聘研究員）

「歴史的建築物に適した木製防火雨戸の開発」

長谷見 雄二（早稲田大学 名誉教授）

「歴史的建築物の防火対策ー活用・改修のための技術・計画法・体制」

16:10-16:20 **休 憩**

16:20-17:00 **パネルディスカッション ー今後の歴史的建築物の活用と防火対策についてー**

モデレーター：後藤治、**パネラー**：渡邊峰樹、広瀬隆、小坂謙介、関澤愛、石郷岡将平、水上点晴、安井昇、長谷見雄二

17:00 **閉 会**

◆参加登録方法（事前登録制）◆ ※参加費無料

本シンポジウムは ZOOM ウェビナーで開催するため、PC、タブレット、スマートフォンにてご視聴いただけます（あらかじめ、ZOOM のアプリのインストールをお願いします。）。

ご視聴をご希望の方は、下記 URL 又は QR コードから、2022年2月13日（日）までにお申込み下さい。

なお、定員（500名）になり次第申込を締め切りとさせていただきますのでご了承下さい。

お申込 URL：https://zoom.us/webinar/register/WN_HURDOgFFRg-ibqD1CgldQ

お問合せ：政策研究大学院大学 歴史建築防火シンポジウム事務局（E-mail: grips.dms@gmail.com）



※本シンポジウムは、JSCA 建築構造士更新評価点対象です。

モデレーター・講演者プロフィール



後藤 治 (工学院大学総合研究所教授・理事長)

1960年京都市生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程中退。博士(工学)。一級建築士。文化庁文化財保護部建造物課文部技官、文化財調査官、工学院大学助教授。同教授を経て現職。専門は、日本建築史、歴史的建造物の保存修復。主な著書に『建築学の基礎 6 日本建築史』共立出版、『都市の記憶を失う前に 建築保存待ったなし!』白揚社、共著、『食と建築土木』LIXIL出版、共著、『論より実践 建築修復学』共立出版など。

渡邊 峰樹 (国土交通省 住宅局 参事官(建築企画担当) 付 企画専門官)

2003年国土交通省入省。住宅局建築指導課、住宅総合整備課、市街地建築課、徳島県庁(出向)などを経て、2021年7月より現職。



広瀬 隆 (臼杵市 都市デザイン課)

平成6年臼杵市役所入庁。現在、都市デザイン課総括課長代理。都市計画及び町並み保全の業務部門への配属は通算でおよそ10年。歴史的町並みを残す臼杵城下町地域においては、景観の保全とともに中心市街地活性化に関する事業等を担当。近年は増加する空き家の利活用、老朽危険家屋対策も含めた事業とも併せて地域活力を生む事業検討などに携わっている。



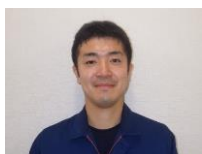
小坂 謙介 (金沢市 文化スポーツ局 歴史都市推進課 主査)

1985年石川県生まれ。首都大学東京大学院修了。2014年より建築技師として同課にて歴史まちづくりを担当、2015年より2年間文化庁(建造物担当)にて行政研修。現在は主に4つの伝建地区や、金沢市独自条例によるこまちなみ保存区域の整備、旧城下町区域内に残る金澤町家の保全活用等を担当。



関澤 愛 (東京理科大学 研究推進機構総合研究院 教授)

1972年京都大学工学部卒。1974年京都大学大学院工学系研究科(建築学専攻)修了。1979年博士(工学)。1976年自治省消防庁消防研究所入所。建築・都市防火から文化財防災に至るまで幅広く火災リスクに関する研究に従事。東京大学大学院客員教授併任を経て、2010年から東京理科大学大学院教授。



石郷岡 将平 (能美防災株式会社 研究開発センター 消火システム研究室)

2012年度入社 研究開発センター 消火システム研究室 配属。消火に関する基礎研究、実験業務を10年間担当。今回講演する薬剤については基礎研究および用途開発の主担当として携わる。



水上 点晴 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究部 防火基準研究室 主任研究官)

2012年京都大学大学院博士課程修了。試験評価機関で防耐火性能の性能規格化に関する研究に従事した後、現職となってからは、木質化が区画内外の火災性状に及ぼす影響に関する研究、条例に基づく防火規制を通じた歴史的町づくりに関する研究、様々な火災事例調査を通じて防火基準の改訂に従事している。



安井 昇 (早稲田大学 理工学研究所)

1968年京都市(京町家)生まれ。1993年東京理科大学大学院(修士)修了。積水ハウスを経て、1999年桜設計集団一級建築士事務所設立。2004年早稲田大学大学院(博士)修了。博士(工学)。2007年日本建築学会奨励賞(論文)受賞(土塗り壁の防耐火性能)。現在、桜設計集団一級建築士事務所代表、早稲田大学招聘研究員。



長谷見 雄二 (早稲田大学 名誉教授)

1951年東京生まれ。1975年早稲田大学大学院建設工学専攻修士課程修了、建築研究所研究員。工博。1987年建築研究所防火研究室長。1997年早稲田大学理工学部建築学科教授。2021年早稲田大学名誉教授。専門は火災を中心とする建築・都市防災。日本工業倶楽部会館、三菱一号館等の防災計画、高山三町、桐生新町等の伝建地区の防災事業を指導。